

建築設計製図/第二第2課題

Sophomore Studio Work: II-2

都市と住居

City and Housing

- 担当教員
大佛俊泰 [教授]
大島信一 [教授]
藤井晴行 [教授]
高尾直子 [准教授]
沖拓弥 [助教]
小林祐貴 [助教]
上野武 [特定教授]
真野洋介 [准教授]
- 学生
梅澤 隼 [M2]
カーン・コンゴアール [M2]
高野好 [M2]
高尾美 [M2]
高木達雄 [M1]
坂本達 [M1]

敷地条件	
計画地	東京都世田谷区深沢
敷地面積	約8,700㎡
課題条件	
原則として地上4階、地下1階以内とする 実際とは異なるが、下記の条件とする	
1	用途地域：近隣商業地域
2	建蔽率(建築面積/敷地面積)：80%以下
3	容積率(延べ面積/敷地面積)：300%以下
4	住戸部分(住戸部分と非住戸部分の比率は9:1程度とする)：原則的に賃貸とし、面積は20~90㎡を目安とする。さまざまなバリエーションのある住戸を出来るだけ組み込む
提出物	
配図例 1/200 各階平面図 1/200 断面図 2面以上 1/200 立面図 2面以上 1/200 住戸の平面・断面詳細図 1/50 パース等/模型 1/200 全体配図 1/200 全体立面図 2面以上 1/200 全体断面図 2面以上 1/200 タイトル/設計主旨	



課題主旨 本課題では、世田谷区深沢の約8,700㎡の敷地を5~6人のグループで分担し、公共施設、商業施設を複合した都市型集合住宅を計画する。計画地全体を魅力的で調和のある街並にするためにグループでディスカッションをしてマスタープランの作成を行った。また一戸建て住宅、集合住宅団地などの居住形態にとらわれない新しい都市居住の提案を求めた。設計条件は、RC造または鉄骨造を主構造とした地上4階・地下1階以内とし、住戸部分は主に賃貸、非住戸部分を10%程度設けることとした。対象敷地は、ゆるやかにカーブした緑道が敷地中央を貫いているため、緑道を包含したマスタープラン、緑道を楽しく住み方の方の提案が求められる。

ASSIGNMENT The assignment in the studio was to propose an urban housing complex integrating public and commercial facilities on an 8700㎡ land in Fukusawa, Setagaya ward. Each group has discussed to develop a master plan to create an attractive and harmonious townscape as a whole. The assignment also asked for a new form of housing other than ordinary detached homes or apartments. The building should be four stories high with a basement level other than RC or steel structure. The housing units are mainly for rent, and 10% of the building should be designed for non-residential purpose. Since a green way pierce through the site in half, a proposal that incorporates this green way into a master plan and housing concept is required.

概要 D班は、各階の緑道を段階的にセッバックさせることで、統一的なスカイラインを形成している。E班は、対象敷地中央に大きな広場を設け、敷地全体が子ども遊ぶ空間となるように設計している。A班は、3階フロアレベルに設けた住民共有の屋上庭園によって、各個人の敷地につながるのを持たせている。B班は、北側敷地を住民のための場所、南側敷地を地域に開かれた場所とし、2階レベルのテラスで敷地全体に一体感を持たせることを試みている。C班は、対象敷地の中央に集中的に配置した非住戸施設と各住宅の関係について検討している。G班は、緑道沿いにワークスペースを集約し、クリエイターによる都市への発信と居住空間の豊かさの両立を目指している。I班は、対象敷地全体に分散させた庭を介して、住民同士の交流を促すことを試みている。J班は、小規模な分棟を個人ごとに異なるルールによってつなぎ、一体感を生むことを試みている。

総評1 グループの中で大きな敷地をどうするか、どうやっていくかが難しい。建物をセッバックさせる家や、ワークスペースを緑道沿いに配置する家など、班によって様々な家があるが、ある共通のコンセプトを統一するというのは、一つの手法である。それで全体の統一感が出る。それぞれの家がさらに良くなると思う。 [上野武]

総評2 チームの課題の場合、全員の力を最大化するのはとても難しいが、街づくり分野では常に関われる課題である。個々の力だけでなく、一緒にやる時も全体の力を最大化するように考えていく必要がある。個々の作品を見ると、建築の断面、建築の内部のプログラム、建築のファード、パブリックなデザインコードなど、人によって好きなこと、興味があることが違ってくる。そういう個々のキャラクターの違いを、来年度のスタジオでさらに発揮してほしい。 [真野洋介]

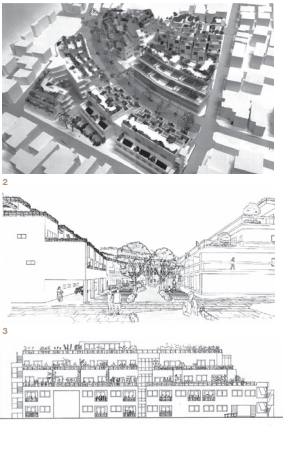
総評3 今年度は、敷地の分割方法やどのような街づくりをしたいかについてのバリエーションがやや少なかった。グループディスカッションにかけた時間が短かったのかも知れない。また、都市における住み方の提案も少なかったように思う。建築設計製図第二では、RC造の図面をマスターズとことや、スケール感を養うことなどを目標としている。しかし、巨大なトイレや広すぎる階段など、スケールのおかしい図面が散見された。そうした視点から、各自の設計案をもう一度見直して欲しい。また、集合住宅の課題として重要な視線のコントロールについての配慮が不足している図面も多かった。開口部の方向や高低差、植栽などを利用して視線をコントロールする等、特に、グラウンドレベルに配置した住戸には十分配慮することが必要である。さらに、共有部分の占める割合が大きすぎる提案も多く見られた。専有面積を十分に確保しながら、集合して住むことのメリットを最大限に活かし、集住空間の価値を高めるための「共有部分のあり方」についての提案がなされると、一層優れた作品となったように思う。 [大佛俊泰]

総評4 本課題は、ディスカッションを通じて設定したグループのコンセプトに基づき、どのように敷地を分割して各メンバーに割り当て、敷地間や周辺環境との関係を常に調整しつつ、各個人の設計をいかに充実させていくかが鍵となる。今年度は、対象敷地の中心部分に広場を設ける家や、路地を張り巡らせる家が目立ったが、設けた広場や路地と各個人の敷地との関係の検討が不十分でグループ全体で見るとまとまりのない提案がほとんどであった。また、本対象敷地でなくとも成立するような案も多かった。今後は、周囲の環境を読み解き、それを設計に生かすことをより意識して課題に取り組んでほしい。 [沖拓弥]

住まいの丘

D Group

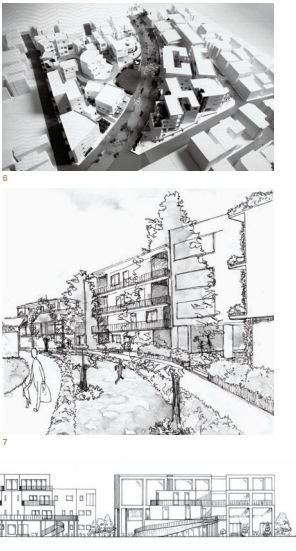
- 1 全体配図図面 1階平面図
- 2 模型写真
- 3 緑道パース
- 4 立面図



優らの庭

E Group

- 1 全体配図図面 1階平面図
- 2 模型写真
- 3 緑道パース
- 4 立面図

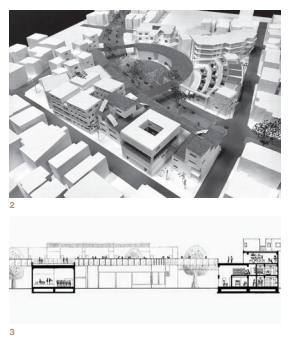


えん

A Group

- 青木駿
- 青木万理
- 芥川直生
- 池田直
- 石井良平
- 市村知輝

- 1 全体配図図面 1階平面図
- 2 模型写真
- 3 断面図

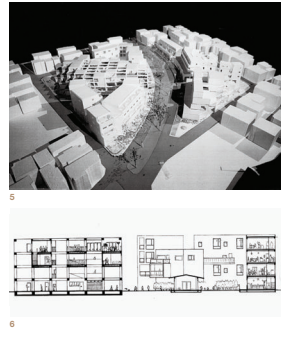


寄り道と庭

B Group

- 井出達也
- 伊藤裕
- 大井谷弘
- 大塚裕平
- 大貫絵莉子
- 大塚春喜

- 4 全体配図図面 1階平面図
- 5 模型写真
- 6 断面図

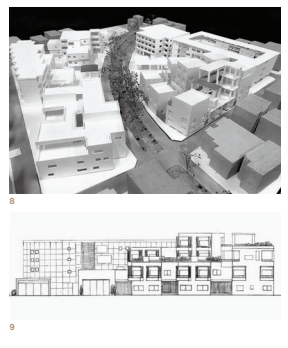


文化の未来を創るまち

C Group

- 奥田瑞平
- 高花日向
- 加藤大
- 加藤大
- 加藤大
- 加藤大

- 7 全体配図図面 1階平面図
- 8 模型写真
- 9 立面図

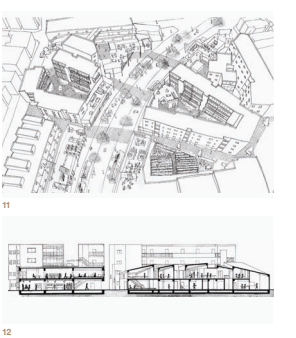


LINKING WORK

G Group

- 土井杏奈
- 中澤遥
- 長谷川
- 中村雄斗
- 野沢龍太郎

- 10 全体配図図面 1階平面図
- 11 鳥瞰パース
- 12 断面図



結の庭

I Group

- 平井麻央
- 平野佳将
- 新田洋
- 水原友太郎
- 前田涼子
- 関崎智紀

- 13 全体配図図面 1階平面図
- 14 広場パース
- 15 断面図



つなぐ

J Group

- 町田匠人
- 松下高太郎
- 米廣日向子
- 西川美紗
- 山崎有紀
- 山中敬

- 16 全体配図図面 1階平面図
- 17 模型写真
- 18 断面図

